

ほとけの 混和会だより

令和四年六月

東光院

仏の混和会

第160号

一隅を照らす

左記の相田みつをさんの言葉。良いですね。

出来る物ならば、私もそんなあなたになりたいです。

最澄様の示された「一隅を照らす」と言う言葉を最も解りやすく語ってくれますね。

悟りを求めての旅、No 5

今回は「一隅を照らす」と言う言葉に着目して参りたいと存じます。

この「一隅を照らす」と言う言葉は比叡山を慈悲の御心を育む道場として開かれた最澄様の言葉ですが、このお便りで何度か紹介した中村哲さんが「一隅を照らす」と言う言葉を座右の銘とされて居たと聞きましたので再度紹介させて頂きます。

あなたがそこに
ただいるだけで
その場の空気が
あがるくなる
あなたがそこに
ただいるだけで
あなたの心は
やすらぐ

そんな
あなたにわたしも
なりたい
みつを

人生は悟りを求めての旅 No 5

中村さんはクリスチャンでありながらも仏教の教えにも精通されていて、イスラム教の国アフガニスタンに行き、医師として救済に勤めておりました。しかし温暖化により地下水は枯渇して、人々は泥水を飲むような不衛生な環境で生活していたのです。よって診療所に通う人々の長い列が耐えることは無かったそうです。

そこで病を治療する前に、先ずきれいな水を確保しなければ健康は維持出来ないと思われ、山岳地帯の雪解け水の流れ

るクナール河より、その昔死の谷と言われたガンベリー砂漠まで25kmの用水路を築き水を引き入れて、豊かな農地へと変貌させたのです。



人々が豊かな緑の田園で、お米や野菜を栽培し健康も維持出来るように成ったそうです。

中村さんは風習も価値観も違う人々を卑下する事も、善悪とか優劣と言う範疇で見るとも無く、地域の人々と同じように、ひげを伸ばし同じ帽子をかぶって、我欲をおさえ何事にもとらわれずに、ひたすら人々の幸を願っておりました。

その行為によって地域の人々に愛され親しまれ多くの人々に信望されておりました。

このような中村さんの居るところは相田みつをさんが言われ

るように、ただそこに居るだけで、その場の空気があかるく照らされたものと思われれます。又「一隅を照らす」この言葉に叶った素晴らしい人だったと思われれます。

最澄様の言葉に「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」と言う教えが有ります。

中村さんは、利害を超えて人々の幸を願い、無条件で人々を愛した。

この損得勘定を超えた無条件の優しさを施す行為を仏教では「布施」と言っております。

しかし、このような心を抱く事は大変困難なことであります。よって修行の一環として、「布施行」と言っております。

「俺がしてやった」などとおごり高ぶることも無く、「俺がしてやったのに」などと恩に着せることも無く、無条件の優しさを施す。

このような慈愛心を懐いた人がただそこに居てくれるだけで、あかるく照らされるものと思われれます。正に「一隅を照らす」人と言うことかと思えます。

中村さんのように大きなことは出来ませんが、慈愛心によって共に信じ合える環境を築き、ただそこに居るだけで安心が抱けるように、身近な処から一隅を照らして参りたいと存じます。



日本仏教に登場する仏様を、毎号少しずつご紹介。只今長野県善光寺では延期となつていた七年に一度のご開帳が行われており、昨日その善光寺での研修会に参加して参りました。そこで今回は善光寺のご開帳についてご紹介します。

● 善光寺のご開帳



「一生に一度は善光寺参り」「牛に引かれて・・」など有名な寺院の為、訪れた事がある方も多いかと思ひます。善光寺は昔から何れの宗派にも属さない全ての人が開かれた寺院です。その様子は松尾芭蕉も善光寺について「月影や四門四宗もただ一つ」と詠まれております。

その為全国でも珍しく天台宗と浄土宗の二つの宗派が共に護持してあります。なぜこの二宗派なのかと伺つたところ「たまたまです。違つたところ、宗派が異なる事、野事、己も周りに囚われず広い視野

ます。話されておりました。さて善光寺のご本尊様は



日本最古の古仏と言われ、六五四年に出来たとされ、以後善光寺の僧侶であつてもご本尊を目にする事は出来ません。その代わりご本尊を模して造られた御身代わりである前立本尊「一光三尊阿彌陀如来像」(左の図)と言

う像を本堂にお迎えし、こちらを厨子をお七に一度ご開帳します。また善光寺のご開帳では「一回向柱」(右の図)と言

う柱が本堂前に建てられ、右手と繋がる「善の綱」が結ばれており、この柱に触れる事で仏様と仏縁を結ぶ事が出来ます。私もお参りさせて頂き、

仏縁を結んだからには日々の生活も「仏様に見られて進せねばなりませぬ。」と



自然法爾



自然法爾とは山、川、草、木又雨や風など大自然の営みであり生命の根源導きであります。よって自然の営みに身を委ね、あるがままに生きなさいと云うことです。

人類は、この自然の営みを自分たちに都合のよいように改造できると考えて来ましたが、その結果、地球の温暖化や砂漠化、水や大気の汚染などの様々な問題を誘発してしま

いました。どれもこれも人類の我が儘が原因かと思ひます。浄土宗の開祖法然上人は、この自然法爾から自らの法名を「法然」と名付けられました。

又浄土真宗の開祖親鸞聖人も「自然法爾章」を記し大自然の無量の時間を司るアミータヌスブダ「南無阿彌陀仏」にお任せしなさい。と記しておられます。

現在、ロシアのシベリアでは温暖化によるかつて無い大規模な森林火災が発生しております。その火災面積は現時点で北海道の数倍の面積に成ると伝えられております。尚且つ例年ですとロシアの軍隊が消火活動に携わりますが、ウクライナ紛争で消火活動が出来ないとのことであります。

なにもかも自然の営みに反した人類だけの都合により、急速に地球環境を危機的状況下に追い込んでおります。共に自然の営みに関心を抱き、持続可能な生活環境を築くことが出来たならば幸いに存じます。合掌 亮観拝



自然との共生